

水稻早期栽培地帯周辺および普通栽培地帯における
ツマグロヨコバイによる稲萎縮病感染歩合について

是石 鞏*・重永 知明*

KOREISHI, K. and SHIGENAGA, T. Contaminated Percentages of
Dwarf Disease by Green Rice Leafhopper, in the Early,
Sowing Cultivation Area and its Surroundings or
in Common Cultivation Area of Rice Plant.

試験目的 水稻早期栽培地帯周辺および普通栽培地帯
におけるツマグロヨコバイの成虫について、稲萎縮病
感染歩合を調査検討した。

試験方法 1. 試験場所；熊本農試本場 2. 供試虫
採集場所；供試虫採集場所の選定は地理的、気象的に
条件の類似している地帯を選び、以下の2点とした。

(1) 熊本市出水町早期栽培地帯周辺(昭和29年より
早期作導入) (2) 熊本市清水町普通栽培地帯 3. 採
集月日；(1) 出水町第1回 4月24日(早期田植7
日前の苗代) 第2回 5月27日(普通芽出時期 苗代周
辺) 第3回 6月24日(普通田植日苗代) (2) 清水町

第1回 5月7日(普通苗代予定地休開田) 第2回 7月
1日(普通田植日苗代) 4. 供試作物および栽培法；
作物 水稻農林17号ポット栽培2万分の1ワグネルポ
ット直播 5. 接種方法；播種後20~25日の苗1本に
ツマグロヨコバイの成虫1頭宛放飼し、7日後に殺虫
除去した。供試虫の隔離にはガラス円筒(直径4.5cm
高さ25.0cm 上部金網張)を使用し、放飼は飼育室内
で行った。6. 調査方法；放飼後9月上旬まで萎縮病
の発病状況を調査し、その採集時期別、雌雄別の発生
率を求めた。

試験結果 第1表および第1図のとおりである。

第1表 試験成績

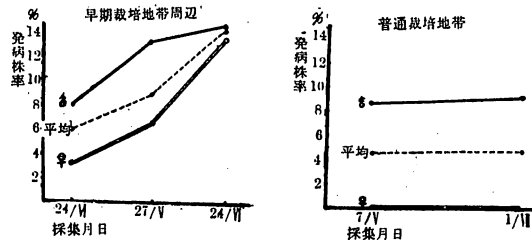
地帯別	採集月日	雌雄別	棲息密度 (20坪当)	放飼頭数	枯死株数	残存株数	発病株数	発病株率	発病株率平均	20坪当 発病頭数	20坪当 発病頭数計
早期栽培 周辺地帯	4月24日	♀ ♂	118 10	53 46	23 9	30 37	1 3	3.3% 8.1	6.0%	3.9 0.8	4.7
	5月27日	♀ ♂	5 1	41 15	9 0	31 15	2 2	6.4 13.3	8.7	0.3 0.1	0.4
	6月24日	♀ ♂	137 319	40 38	11 4	29 34	4 5	13.8 14.7	14.3	18.9 55.9	74.8
普通栽培 地帯	5月7日	♀ ♂	42 17	42 40	9 6	33 34	0 3	0 8.8	4.5	0 1.5	1.5
	7月1日	♀ ♂	1010 700	43 46	3 2	40 44	0 4	0 9.1	4.8	0 63.7	63.7

考察および摘要 1. 早期栽培地帯周辺における萎
縮病感染歩合(1) 本地帯においては4月下旬より6
月下旬に至る間の萎縮病感染歩合は、概ね3~15%で

あつた。(2) 本地帯においては4月下旬より6月下
旬に至るにつれて、感染歩合がやや増加する傾向がう
かがわれる。(3) 雌雄別にみると、いずれの採集時
期も雄成虫の感染歩合が雌成虫のそれに較べてやや高

*熊本縣農業試験場

第1図 萎縮病発病株率推移図



い傾向がうかがわれる。

2. 普通栽培地帯における萎縮病感染歩合

(1) 本地帯における5月下旬, 7月上旬の萎縮病感染歩合は概ね0~10%であつた。(2) 本地帯におい

ては, 萎縮病感染歩合の時期的な変動は目立たないようである。(3) 雌雄別にみると, いずれの採集時期も雄成虫の感染歩合が雌成虫のそれに較べてやや高い傾向がうかがわれる。

3. 早期栽培地帯周辺と普通栽培地帯の感染歩合の比較

(1) 本試験期間においては, 早期栽培地帯周辺における感染歩合は普通栽培地帯のそれよりも若干高く, かつ後期にかけて幾分増加の傾向がうかがわれるようである。(2) 本試験期間においては, 雌雄別の感染歩合はいずれの地帯においても, 時期の区別なく, 雄成虫の感染歩合がやや高い傾向がうかがわれる。